

## 国語復習プリント①

- [1]** 次の各文の【 】を、漢字で書きなさい。  
大学で学業を【オサ】める。
- [2]** 国民は税金を【オサ】める義務がある。
- [3]** 政治で国を【オサ】める。
- [4]** 試合で一方的な勝利を【オサ】める。
- [5]** 利潤を【ツイキユウ】する。
- [6]** 地球のなぞを【ツイキユウ】する。
- [7]** 事故の責任を【ツイキユウ】する。
- [8]** 運動場を住民に【カイホウ】する。
- [9]** 繁張から【カイホウ】される。
- [1] [2]** 次の熟語の対義語を□から選び漢字に直しなさい。  
絶対
- [1] [2]** 原則
- [1] [2]** 形式
- [4]** 天然
- [1] [2]** 次の【 】にあてはまる漢字二字を補つて、ことわざを完成させなさい。
- 1** 一 一 の不養生
- 2** 論より【 】
- 3** 花より【 】
- 4** 【 】口に苦し
- [3]** 次の【 】にあてはまる漢字二字を補つて、ことわざを完成させなさい。
- 1** 灯台下暗し
- 2** 雨降つて地固まる
- 3** 焼け石に水
- 4** 枯れ木も山のにぎわい
- 4** アトラブルがあつた後、かえつてよい状態になること。  
イ わずかな援助では効果があがらないこと。  
ウ つまらぬ物も無いよりはましであること。  
エ 手近のことがかえつてわかりにくいくこと。  
オ あつかましく、はじ知らずなこと。
- [5]** 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。  
吾輩は猫である。名前はまだない。
- どこで生まれたか頓と見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番躊躇な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐ろしいとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばか
- [レイガイ・タイカ・ジンコウ・ソウタイ・ナイヨウ]**

次の文中の①～⑥にあてはまる最も適當な語を、あととの語群からそれぞれ選んで補いなさい。

「吾輩」という呼称はどこか①さを感じさせるニュアンスのある語である。それをまだ名前もなく、どこで生まれたか分からぬ猫という小動物と結び付けたところに、すでに②が出ている。この滑稽で可哀相な吾輩は初めて見た人間の顔を妙なものだと思い、まるで薬缶だと馬鹿にしたよう言つてはいる。滑稽であるが、手厳しい③が込められている。このことを表現の方法として見ると、漱石は、④を探り、⑤の⑥による人間の対象化を行つてゐるのである。『吾輩は猫である』が⑤の⑥を通して人間社会に対する批判や③を行つた作品として評価されるのは、この方法を漱石が自覚して深めたからである。

ア 目	イ 人間	ウ おかしさ	エ 非難
オ 楽しさ	カ 口	キ 尊大	ク 擬人法
ケ 生意気	コ 風刺	サ 比喩	シ 猫

りである。掌の上で少し落ち付いて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始であろう。この時妙なものだと思つた感じが今でも残つている。第一毛を以て裝飾されるべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶だ。のみならず顔の真中が余りに突起している。そうしてその穴の中から時々ふうぶうと煙けむりを吹く。どうも咽のせぼくて實に弱つた。これが人間の飲む咽草たばこというものである事は漸くこの頃知つた。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持ちに坐つておつたが、暫くすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分が動くのか分からぬがむやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底助からないと思つていると、どさりと音がして目から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分からぬ。

ふと気が付いて見ると書生はいない。沢山おつた兄弟が一疋ひきも見えぬ。肝心の母親さえ姿を隠してしまつた。その上今までの所とは違つてむやみに明るい。眼あを明あいていられぬ位だ。果てな何でも容子ようすが可笑おかしいと、のそのそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ捨てられたのである。

漸くの思いで笹原を這い出すと向こうに大きな池がある。吾輩は池の前に坐つてどうしたらよからうと考えてみた。別には是という分別も出ない。暫くして泣いたら書生が又迎に来てくれるかと考え方付いた。ニヤー、ニヤーと試みにやつて見たが誰も来ない。その内池の上をさらさらと風が渡つて日が暮れかかる。

(夏目漱石『吾輩は猫である』)

〔6〕次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

孝道入道、仁和寺の家にて或人と双六をうちけるを、

隣に住んでいる越前房といふ僧きたりて、見所すとて、様々の勝負の判定をすると言つて

さかしらをしけるを、にくしにくしと思ひけれども、物もいはでBうちあたりけるに、この僧さかしらしさして立ちぬ。

Cがへりぬと思ひて、亭主、「この越前房はよき程の者かな。」といひたりけるに、かの僧いまだ帰らで、亭主のうしろに立

ちたりけり。かたき、また物いはせじとて、①亭主のひざをつ

きたりければ、うしろへ見むきて、見れば、この僧いまだありけり。この時とりもあへず、「越前房は高くもなし、低くもなし。よき程の者な。」とDいひなほしたりける、心は

やさ、いと②をかしかりけり。

〔古今著聞集〕

注※双六 奈良時代に中国から伝承した室内遊戯。二人で行う。

1 二重傍線部A～Dを現代かなづかいにして、すべてをひらがなで書きなさい。

2 傍線部①「亭主のひざをつきたりければ」は、誰が何のためにしたことか。最も適当なものを、あとのア～エから選びなさい。

ア 越前房が「或人」にでたらめを言わせないため。

イ 孝道入道が「或人」に悪口を言わせないため。

ウ 「或人」が孝道入道に陰口めいたことを言わせないため。

エ 越前房が孝道入道に負け惜しみを言わせないため。

3 傍線部②「をかしかりけり」について、答えなさい。

(1) 文章中での意味として最も適当なものを、あとのア～エから選びなさい。

ア 滑稽だった

イ つまらなかつた

ウ 情けなかつた

エ おもしろかつた

(2) 作者は孝道入道のどんな点を「をかしかりけり」と感じたのか。最も適当なものを、あとのア～エから選びなさい。

ア 悪口として言つた同じ言葉ではぐらかして切り抜けた点。

イ 悪口を言われたが同じ言葉で逆に相手をやり込んだ点。

ウ 悪口を、逆にほめ言葉だと解釈して気持ちを収めた点。

エ 悪口を言つた相手にも腹を立てないで、許してあげた点。

4 古文の内容に一致するものを、あとのア～エから選びなさい。

ア 孝道入道は越前房と双六を打っていた。

イ 孝道入道は双六の途中で退席した。

ウ 孝道入道は越前房を憎らしいと思つた。

エ 孝道入道は双六の勝負に敗れた。

〔7〕次のマスのなかに、読む順序を算用数字で書きなさい。  
1 □□□□□□□□□□□□  
2 □□□□□□□□□□□□  
3 □□□□□□□□□□□□

〔8〕次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。  
1 □□□□□□□□□□□□  
2 □□□□□□□□□□□□  
3 □□□□□□□□□□□□

1 二重傍線部A・Bの読みと意味を答えなさい。ただし、読みは現代かなづかいで答えること。

2 傍線部①・③・④を書き下し文にしなさい。  
〔韓非子〕

1 二重傍線部A・Bの読みと意味を答えなさい。ただし、読みは現代かなづかいで答えること。

2 傍線部①の理由として最も適当なものを、あとのア～エから選びなさい。

3 傍線部②の理由として最も適当なものを、あとのア～エから選びなさい。

ア 鬼や化け物は、一定の形がないが、見える人には見えて、その証言を得られるから。

イ 鬼や化け物は、一定の形がなく、人の目に見えないので、どのようにも描くことができるから。

ウ 鬼や化け物は、一定の形がないうえに、種類も大変多いため、選んで描くことができるから。

エ 鬼や化け物は、一定の形がないが、昔の資料がたくさん残されていて参考にできるから。

## 国語復習プリント①

## 解答用紙

年

組

名前

9 4

〔〕

5  
〔〕

〔〕

1 [2]

〔〕

2 [ ]

〔〕

3 [ ]

〔〕

4 [ ]

〔〕

〔〕

1 [3]

〔〕

2 [ ]

〔〕

3 [ ]

〔〕

4 [ ]

〔〕

5  
〔〕

〔〕

1 [4]

〔〕

2 [ ]

〔〕

3 [ ]

〔〕

4 [ ]

〔〕

5  
〔〕

④ ① [5]

〔〕

⑤ ②

〔〕

⑥ ③

〔〕

4 [ ]

〔〕

4 [ ]

〔〕

2 C [6]

〔〕

3 (1)

〔〕

(2)

〔〕

4 [ ]

〔〕

4 [ ]

〔〕

1 [7]

〔〕

レ

〔〕

レ

〔〕

レ

〔〕

3 [ ]

〔〕

二

〔〕

レ

〔〕

二

〔〕

2 B [8]

〔〕

読み

〔〕

ニ レ

〔〕

意味

〔〕

3 A [ ]

〔〕

読み

〔〕

ニ レ

〔〕

意味

〔〕

国語復習プリント①

解答

6 1 [1]

追究

」

7 2

追及

」

8 3

開放

」

9 4

解放

」

5

追求

】

1 [2]

相対

」

2 「

例外

」

3 「

内容

」

4 「

人工

」

3 花 [3]

医者

」

2 「

の不養生

」

4 「

良薬

」

5 「

収放

」

1 [4]

エ

」

2 「

ア

」

3 「

イ

」

4 「

ウ

」

4 ① [5]

ク キ

」

5 「

シ ウ

」

6 「

ア コ

」

7 「

ウ

」

2 C [6]

ウ

」

3 「

エ

」

4 「

ア

」

5 「

ウ

」

3 1 [7]

レ

」

4 「

カ

」

5 「

エ

」

6 「

ウ

」

3 5 [8]

レ

」

1 「

カ

」

2 「

エ

」

3 「

ウ

」

2 1 [8]

レ

」

3 「

カ

」

4 「

エ

」

5 「

ウ

」

3 4 ③ ① B A [8]

読み

」

イ ゆえニ

」

之に類せしむべからず

」

客に斎王の為に画く者有り

」

人の知る所なり

」

意味

」

そもそも

だから

」